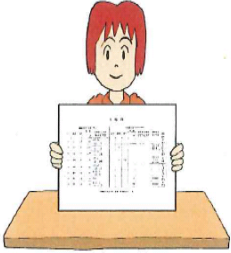


事務事業名	地籍管理事業						所属部	建設部	所属課	管理総務課
施策名	0	1	地域の特色を活かした土地利用を進めるまちづくり				所属担当	地籍担当	課長名	小川 和仁
法令根拠	国土調査法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	6	1	6	10	1	一筆地調査と地籍測量の結果をまとめ、地籍簿を作成します。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地籍調査完了地区における分合筆等の地図訂正</li> <li>・土地情報システムの維持・管理及び分合筆等移動データの更新</li> <li>・土地情報システムにより地図データを住民に提供する。</li> </ul> <p>◇平成27の主な事業費                  データ修正委託 18,138千円                  需用費等その他費用 74千円</p>										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標				
① 手段(主な活動)		← 実施計画期間 →		
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画	
修正、保守管理、データ更新、交付	修正、保守管理、データ更新、交付	修正、保守管理、データ更新、交付	修正、保守管理、データ更新、交付	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)		指標名(数字は記入しない) 単位		
↓ 地籍調査が終了した土地		⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)		
		ア 年間分合筆処理件数		件
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)		⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		
↓ 適正に管理する		イ 地籍調査済面積		km <sup>2</sup>
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)		⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)		
効率的で適正な土地利用が推進される		ウ 認証済面積		km <sup>2</sup>
		⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)		
		エ 用途区域内の宅地面積		km <sup>2</sup>

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	16,979	17,207	18,212	24,340	18,340	18,340
	事業費計 (A)	千円	16,979	17,207	18,212	24,340	18,340	18,340	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	
	人件費計 (B)	千円	7,962	8,232	8,232	8,232	8,232	8,232	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	24,941	25,439	26,444	32,572	26,572	26,572	
活動指標	ア	件	9,416	10,066	9,000	10,000	10,000	10,000	
対象指標	イ	km <sup>2</sup>	123	123	123	123	123	123	
成果指標	ウ	km <sup>2</sup>	114	114	114	117	118	118	
上位成果指標	エ	km <sup>2</sup>	1	1	1	1	1	1	

事務事業名	地籍管理事業
-------	--------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 国土調査法に基づき適正な管理を実施しているため、実態と合っている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 調査が終了した土地はすべて適正に管理されている。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 自己財産の適正な把握が困難になり、円滑な土地取引や土地利用の妨げとなる。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 調査及び管理は最低限の配置であり、開発等や未認証地区解消により事務量は増えているので、削減の余地はない。

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)          <p>地籍調査の進行状況は、他市に比較して進んでいるが、地籍図の訂正業務の増加や未認証地区の認証再取得など高度な知識を要求される業務が増えている。地籍調査は、案件によりなかなか進まないことが多々ある。時間をかけて対応するしかない状況にある。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可  <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)  <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						

事務事業名	道路維持管理事業					所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	0 2 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり					所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠	道路法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	8	2	2	10	1			

○事務事業の概要および主な事業費の内訳

地区からの市道の補修等の要望に対し、要望の精査をするとともに、予算の範囲内で緊急度や危険度を考慮し優先順位をつけ、適切な工事を施工する。

◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)

・需用費 14,023 ・委託料 70,746 ・工事費 307,294

・原材料 6,442 ・用地費 4,705 ・補償費 7,816

※繰越事業費 平成26年度 ⇒ 平成27年度 110,485 千円

平成27年度 ⇒ 平成28年度 48,200 千円



1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

実施計画期間

27年度実績

市道の適切な管理、地区要望の受付、関係部局との調整、現地での状況確認、工法検討設計積算、住民との協議・調整、施工管理、検査、引受

28年度実施計画

市道の適切な管理、地区要望の受付、関係部局との調整、現地での状況確認、工法検討設計積算、住民との協議・調整、施工管理、検査、引受

29年度実施計画

市道の適切な管理、地区要望の受付、関係部局との調整、現地での状況確認、工法検討設計積算、住民との協議・調整、施工管理、検査、引受

30年度実施計画

市道の適切な管理、地区要望の受付、関係部局との調整、現地での状況確認、工法検討設計積算、住民との協議・調整、施工管理、検査、引受

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

市道、橋梁  
市民

指標名(数字は記入しない)

単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)

ア 地区要望件数

件数

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

安全で快適な道路となる。

⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)

イ 地区要望実施件数

件数

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

便利で暮らしやすい生活環境づくりの基盤が確保される。  
快適な市民生活を送る。

⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)

ウ 市道延長

m

⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)

エ 市道舗装率

%

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度 (実績・見込)	28年度 (計画・目標)	29年度 (計画・目標)	30年度 (計画・目標)	補助事業名		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	38,452	34,495	118,270	155,650	60,000	60,000	社会資本整備 総合交付金
		県支出金	千円								
		地方債	千円	25,500	42,700	171,400	191,100	46,000	46,000		
		その他	千円	1,850		73	130,091				
		一般財源	千円	347,270	383,420	384,822	168,027	444,000	444,000		
	事業費計 (A)	千円	413,072	460,615	674,565	644,868	550,000	550,000			
人件費	正規職員延従事人数	人	2.90	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			
	人件費計 (B)	千円	19,242	20,580	20,580	20,580	20,580	20,580			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	432,314	481,195	695,145	665,448	570,580	570,580			
	活動指標	ア 件数	310	388	351	338	350	350			
	対象指標	イ 件数	129	142	150	150	150	150			
	成果指標	ウ m	889,743	889,736	890,000	890,500	891,000	891,500			
	上位成果指標	エ %	91	91	91	91	92	92			


事務事業名	道路維持管理事業
-------	----------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>便利で暮らしやすい生活環境をつくるための維持管理を行っている。市民が対象の事業で、実態に合っている。</p>
有効性評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>限られた予算の中で執行しているため、地区の要望に対し答えられていない。道路舗装については、打ち換えが必要な市道があるが、補修等で対応している。</p>
有効性評価	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>市道は誰もが毎日利用するものであり、安全で快適な市民生活が損なわれ、多くの市民が困る。</p>
効率性評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>事業費として、工事費・委託費・補償費・用地費である。今後、橋梁の長寿命化や舗装の打ち換えを行う為、事業費を削減することは難しい。</p>

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

<p>(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)</p> <p>地区要望予算については、極めて厳しい状況であるため、要望の一部しか対応できていない。優先順位をしっかりとたて、限られた予算を有効に活用していかなければならない。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			X	低下			X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			X																		
	低下			X																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>予算確保が第一と考えるが、限られた予算の中で効率的に使用していくことを職員に徹底させること。</p>																						

事務事業名	砂原橋架替及び周辺道路整備事業					所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	0 2 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり					所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠	道路法、河川法					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H21年度～H30年度)	
	1	8	2	3	50・70	2・3			
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									
地方道路整備臨時交付金による事業予算 ・市内へのアクセス向上、幹線道路整備のため市道石和13号線を道整備交付金により整備する。 ・市道の測量設計、用地取得、改良工事施工。 ◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・委託料 21,794 ・使用料 1,166 ・工事費 260,133 ・用地費66,577 ・補修費 28,855									
※繰越事業費 平成26年 ⇒ 平成27年度 286,621 千円 平成27年 ⇒ 平成28年度 75,000 千円									

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

実施計画期間

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
地元との協議、関係部局との調整、補助金申請・実績、現地確認、設計積算、工事発注、施工管理、用地取得	地元との協議、関係部局との調整、補助金申請・実績、設計積算、工事発注、施工管理、用地取得	地元との協議、関係部局との調整、補助金申請・実績、設計積算、工事発注、施工管理、用地取得	地元との協議、関係部局との調整、補助金申請・実績、工事発注

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

指標名(数字は記入しない) 単位

市道石和13号線  
市民

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 路線延長	m
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 計画改良延長	m
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 整備延長	m
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 改良率	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

市内へのアクセス向上、幹線道路網整備、安全かつ円滑に通行できるよう整備する。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

人が行き交う道路・交通ネットワークが確立される。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度 (実績・見込)	28年度 (計画・目標)	29年度 (計画・目標)	30年度 (計画・目標)	補助事業名		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	212,479	237,680	187,423	111,423	40,000	20,000	道整備交付金事業 社会資本整備総合交付金事業
		県支出金	千円								
		地方債	千円	219,200	190,300	354,100	180,000	152,000	28,000		
		その他	千円								
		一般財源	千円	67,204	11,700	44,741	41,576	8,000	2,000		
	事業費計(A)	千円	498,883	439,680	586,264	332,999	200,000	50,000			
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	1.20	1.20	1.20	1.20	1.00			
	人件費計(B)	千円	6,635	8,232	8,232	8,232	8,232	6,860			
トータルコスト(A)+(B)		千円	505,518	447,912	594,496	341,231	208,232	56,860			
活動指標	ア	m	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550			
対象指標	イ	m	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550	1,550			
成果指標	ウ	m	100	550	800	1,100	1,500	1,550			
上位成果指標	エ	%	6	40	52	71	96	100			




事務事業名	砂原橋架替及び周辺道路整備事業
-------	-----------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>県道白井河原八田線と県道藤袋石和線を結ぶ、市の幹線道路整備の為、対象は実態とあっている。</p>
有効性評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>国庫補助事業の道路特定財源を充てて事業を行っている為、財源の確保と関係機関及び権利者との協議に時間を要している。</p>
有効性評価	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>市内へのアクセス向上、幹線道路網整備、安全かつ円滑な通行に支障が有り、市民が困る。</p>
効率性評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>国庫補助事業のため、専門知識を必要とする。用地交渉にも時間を要するので適切である。</p>

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

<p>(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)</p> <p>国庫補助事業の道路特定財源を充てた事業のため、財源の確保と関係機関との協議及び権利者との用地交渉に時間を要している。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持			X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持			X																		
	低下		X	X																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>砂原橋自体は完成し、仮共用が始まったが、1日も早い周辺道路の整備を進めていく。</p>																						

事務事業名	スマートIC周辺道路整備事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	02 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり						所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H21年度～H29年度)		
	1	8	2	3	70	4				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
国、山梨県、高速道路会社との調整、詳細設計業務。 ◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・委託費 8,064 ・工事費 65,109 ・補償費 30,482 ※繰越事業費 平成26年度 ⇒ 平成27年度 46,653 千円										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段(主な活動) ← 実施計画期間 →			
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
埋蔵文化財調査 工事施工 標識設置計画策定 用地・測量(官有地処理)	(スマートIC道路整備) 工事施工(27年度繰越) 調査・測量(官有地処理) 埋蔵文化財報告書作成 (1-32号線) 用地調査・用地取得	(1-32号線) 用地取得・道路改良工 事	
② 対象(誰、何を対象にしているのか)		指標名(数字は記入しない) 単位	
↓ 市道全路線 ↓ 市民		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
		ア 市内インターチェンジ数 箇所	
③ 意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
↓ 安全かつ円滑に通行できるよう整備する。		イ 笛吹市の人口 人	
④ 結果(意図した結果、さらに何に反映させるか)		⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)	
便利で暮らしやすい生活環境づくりの基盤が確保される。 快適な市民生活を送る。		ウ 市内インターチェンジ年間乗降台数 台数	
		⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)	
		エ 幹線道路が整備され、市内外への移動が円滑にできると思う市民の割合。 %	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度 (実績・見込)	28年度 (計画・目標)	29年度 (計画・目標)	30年度 (計画・目標)	補助事業名	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	3,481	61,161	83,047	163,900	80,000	社会資本整備 総合交付金事業
		財源内訳	県支出金	千円						
		財源内訳	地方債	千円	3,000	49,600	111,300	135,200	93,000	
		財源内訳	その他	千円	3,235	26,019	21,052			
		財源内訳	一般財源	千円	413	9,583	13,243	11,796	4,900	
	事業費計(A)	千円	10,129	146,363	228,642	310,896	177,900	0		
人件費	正規職員延従事人数	人	1.00	2.00	1.50	1.50	1.00			
	人件費計(B)	千円	6,635	13,720	10,290	10,290	6,860	0		
トータルコスト(A)+(B)		千円	16,764	160,083	238,932	321,186	184,760	0		
活動指標	ア	箇所	1	1	1	2	2			
対象指標	イ	人	71,132	70,749	70,662	70,600	70,500			
成果指標	ウ	台数	3,135,723	2,945,974	3,000,000	3,050,000	3,150,000			
上位成果指標	エ	%	42	—	—	44	50			

事務事業名	スマートIC周辺道路整備事業
-------	----------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？	⇒【理由】 市内に2箇所目となるインターチェンジであり、市内外への円滑な通行の確保になり、対象は実態とあっている。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	
有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？	⇒【理由】 限られた予算により執行し、関係機関との調整が難しく協議に時間を要している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	
効率性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？	⇒【理由】 市内へのアクセス向上、災害時の緊急輸送路としての役割を果たす道路としての整備のため、市民が困る。
	<input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	
効率性評価	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？	⇒【理由】 関係機関との調整や協議が多く人員削減は難しい。
	<input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>関係機関との連携により、効率よく周辺道路の整備を進めていく。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						
<p>効率の良い工事を進めるため、関係機関との密な連絡をつけ、整備を進めていく。</p>																						



事務事業名	合併特例事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	0 2 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり						所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠	市町村の合併の特例に関する法律						個別計画	新市建設計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H17年度～H31年度)		
	1	8	2	3	10	2				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<p>各地区から市道改良の要望を受け精査し事業計画を立て整備を行っていく。 新設・改良、市道の用地取得をし、整備する事業。</p> <p>◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・委託料 8,834 ・工事費 109,604 ・用地費 2,590 ・補償費 14,734</p>										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	← 実施計画期間 →			
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画	
地区要望受付、関係部局調整、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受、用地取得、物件補償、負担金	地区要望受付、関係部局調整、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受、用地取得、物件補償、負担金	地区要望受付、関係部局調整、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受、用地取得、物件補償、負担金	地区要望受付、関係部局調整、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受、用地取得、物件補償、負担金	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)	指標名(数字は記入しない)			単位
市道全路線 市民	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)			
	ア 地区要望件数			件
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)			
安全かつ円滑に通行できるよう整備する。	イ 路線数			路線
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)	⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)			
便利で暮らしやすい生活環境づくりの基盤が確保される。 快適な市民生活を送る。	ウ 対応件数			路線
	⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)			
	エ 完成路線数			路線

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度 実績	26年度 実績	27年度 (実績・見込)	28年度 (計画・目標)	29年度 (計画・目標)	30年度 (計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円	16,500	7,700				社会資本整備 総合交付金事業
		県支出金	千円						
		地方債	千円	225,000	233,600	136,100	174,400	127,000	
		その他	千円						
		一般財源	千円	40,187	12,409	9,000	8,800	6,400	
	事業費計(A)	千円	281,687	253,709	145,100	183,200	133,400	131,300	
人件費	正規職員延従事人数	人	6.80	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
	人件費計(B)	千円	45,118	20,580	20,580	20,580	20,580	20,580	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	326,805	274,289	165,680	203,780	153,980	151,880	
活動指標	ア	件	19	18	15	15	15	15	
対象指標	イ	路線	19	18	15	15	15	15	
成果指標	ウ	路線	15	12	11	11	10	10	
上位成果指標	エ	路線	5	7	6	7	7	7	


事務事業名	合併特例事業
-------	--------

## 2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>市道は市が管理を行なうため、市道全路線を対象とし改良工事をする。</p>
有効性評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>限られた予算により執行しているため、全ての要望が取り入れられず、未改良の箇所が存在している。</p>
有効性評価	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>未改良箇所が存在し、日常生活に支障をきたす。</p>
効率性評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>要望箇所を精査し現地で最適な工法を検討、設計をしている。</p>

## 3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>地区要望予算については、極めて厳しい状況であるため、要望の一部しか対応できていない。優先順位をしっかりとたて、限られた予算を有効に活用していかなければならない。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			X																		
	低下		X	X																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>予算確保が第一と考えるが、限られた予算の中で効率的に使用していくことを職員に徹底させること。</p>																						

事務事業名	社会資本整備総合交付金事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	0 2 人が行き交う道路・交通ネットワークづくり						所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠	道路法、河川法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H16年度～H30年度)		
	1	8	2	3	70	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
市内の幹線道路網を整備し、市民の交通の利便性を高めるため、市道1-22・1-26号線の整備。										
◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・工事請負費 4,704 千円										
※繰越事業費 平成26年度 ⇒ 平成27年度 30,556 千円										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)				← 実施計画期間 →			
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画				
地元との協議、関係機関との協議・調整、道路改良工事完成	(新規) 労報橋架け替え工事	労報橋架け替え工事 市道1-8号線他道路改良工事	舗装工事				
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)				指標名(数字は記入しない) 単位			
↓ 市民 市道1-26・1-22号線・国道20号線交差点				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)			
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)				ア 路線延長 m			
↓ 市内外へのアクセス向上、幹線道路網整備 安全かつ円滑に通行できるよう整備する。				⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)			
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)				イ 計画改良延長 m			
人が行き交う道路・交通ネットワークが確立される。				⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)			
				ウ 改良済延長 m			
				⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)			
				エ 改良率 %			

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	19,500	26,896	13,200	55,000	66,000	5,500	社会資本整備総合交付金事業
		県支出金	千円								
		地方債	千円	32,800	64,500	21,500	74,100	51,000	4,000		
		その他	千円								
		一般財源	千円	2,153	3,588	1,300	3,900	3,000	500		
	事業費計(A)	千円	54,453	94,984	36,000	133,000	120,000	10,000			
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.70	0.50	0.70	0.70	0.50			
	人件費計(B)	千円	3,318	4,802	3,430	4,802	4,802	3,430			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	57,771	99,786	39,430	137,802	124,802	13,430			
活動指標	ア	m	1,170	1,170	1,170	540	540	540			
対象指標	イ	m	1,170	1,170	1,170	20	520	520			
成果指標	ウ	m	800	1,130	1,170	20	520	540			
上位成果指標	エ	%	68	97	100	50	96	100			

事務事業名	社会資本整備総合交付金事業
-------	---------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>国道20号線へのアクセスのための交差点改良であり、影響範囲を含め、対象は実態とあっている。</p>
有効性評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>2路線の整備も完了し、円滑に通行ができることで、市内外へのアクセスも向上する。</p>
有効性評価	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>新規で1-8号線(労報橋架替)を行う事で市内のアクセス向上につながる。また、橋の架け替えにより、安全かつ円滑な通行につながる。</p>
効率性評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>市内の幹線道路や主要施設へのアクセス道路として、年次的な整備計画で事業を進めており、関連する用地取得も残されていることなどから人員削減等は難しい。</p>

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>市内幹線道路の年次的な整備を進めているが、地域振興等を考慮し、最も有効的な道路整備を実践している。今後も、この方向で進めていく。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	X																		
	低下		X	X																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>予算確保が第一と考えるが、限られた予算の中で効率的に使用していくことを職員に徹底させること。</p>																						



事務事業名	石和温泉駅周辺整備事業						所属部	建設部	所属課	まちづくり整備課
施策名	0	3	機能的で魅力ある市街地づくり				所属担当	駅周辺整備担当	課長名	雨宮 茂貴
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H21年度～H27年度)		
	1	8	4	1	110	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<b>【事務事業の概要】</b> 本市の玄関口として石和温泉駅南北自由通路を整備した後、道路機能を維持するために、駅南口屋根部に太陽光発電設備(20KW)を設置した。 また、既存観光案内所を南口1階部に移設し、この建物を解体・整地する(総務課と連携して駅前交番を誘致している)。 <b>【事業費の内訳】</b> ○平成27年度委託料、工事請負費等 46,850千円 ○26年度⇒27年度繰越事業費 1,055,928千円										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動) ← 実施計画期間 →										
27年度実績		28年度実施計画			29年度実施計画		30年度実施計画			
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年2月12日に駅北口広場、南北自由通路、観光案内所の竣功式典を開催</li> <li>駅舎の上屋部分に太陽光発電設備を設置</li> </ul>										
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)					指標名(数字は記入しない) 単位					
↓ 市民、観光客及び駅利用者					⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
					ア 検討委員会・説明会の開催				回	
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)					⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
↓ 利便性の高い駅周辺の都市空間の拡充や生活環境の充実					イ 関係機関との協議回数				回	
					⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)					
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)					ウ 駅乗車人数の増加率				%	
ユニバーサルデザインを考慮し、使いやすい駅周辺を作ることにより、利用者の増加につなげる					⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)					
					エ 観光客数				万人	
(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	350,023	508,948	227,252			社会資本総合交付金
		県支出金	千円		6,779					
		地方債	千円	21,400	987,200	778,600				
		その他	千円			3,200				
		一般財源	千円	20,157	111,744	93,726				
	事業費計(A)	千円	391,580	1,614,671	1,102,778	0	0	0		
人件費	正規職員延従事人数	人	1.90	1.90	1.90				県補助金(鉄道駅バリアフリー化整備)	
	人件費計(B)	千円	12,607	13,034	13,034	0	0	0		
トータルコスト(A)+(B)		千円	404,187	1,627,705	1,115,812	0	0	0		
活動指標	ア	回	3	2	1					
対象指標	イ	回	10	15	15					
成果指標	ウ	%	1	3	3					
上位成果指標	エ	万人	342	350	355					




事務事業名	石和温泉駅周辺整備事業
-------	-------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>駅北口及び広場の開設と南北通路の開通により笛吹市の玄関口として魅力ある街づくりにつながり合致している。</p>
有効性評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>整備検討委員会および庁内検討会の結果を踏まえ策定した石和温泉駅周辺地区都市再生整備計画に基づき、事業を推進している。</p>
有効性評価	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>今年度、駅周辺整備事業が終了し、今後においては、維持管理事業へ移行しているため。</p>
効率性評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>整備事業が終了し、維持管理事業へ移行する。</p>

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>H28.2.12 石和温泉駅南北自由通路開通記念式典を行い、駅北口広場・観光案内所も年度内にオープンすることができた。利用が始まり細部にわたり今後改良が必要な箇所が出てくると考えられるので対応していく。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>X</td> <td>X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			X																		
	低下		X	X																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>平成27年度に駅周辺整備事業は終了し、維持管理事業へ移行する。</p>																						

事務事業名	リニアの見える丘整備事業					所属部	建設部	所属課	まちづくり整備課
施策名	0	5	もてなしの心があふれる観光地づくり			所属担当	公園管理担当	課長名	雨宮 茂貴
法令根拠	都市公園法、笛吹市公園管理条例、笛吹市管理公園規則等					個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H26年度～H27年度)	
	1	8	4	5	10	26			
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									
<p><b>【事務事業の概要】</b>                  本市の観光拠点及び市民の憩いの場として笛吹市リニアの見える丘・花鳥山一本杉公園を設置して「リニアの見える丘・花鳥山展望台」に四阿の整備(2箇所)、リニア走行案内表示モニターの設置、公園内遊歩道の整備、駐車場、トイレの整備を行う。</p> <p><b>【平成27年度事業費の内訳】</b>                  工事請負費等 163,929千円                  財産購入費等 16,414千円</p>									

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地権者との用地、補償契約</li> <li>・関係部署協議</li> <li>・工事発注及び施工</li> <li>・工事完成による竣工式</li> <li>・「リニアの見える丘・花鳥山展望台」の開園</li> </ul>			

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

公園整備

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 公園整備面積	m <sup>2</sup>
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 公園整備面積	m <sup>2</sup>
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 事業進捗率	%
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ	

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

全国一のリニア展望スポットを整備して、笛吹市へ多くの観光客を誘致する。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

公園を整備することにより、観光客を誘致することにより、市に経済効果による商業者の利益向上に繋がると同時に、にぎわいの創出が期待できる。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円		9,500	191,100			
		その他	千円						
		一般財源	千円		4,210	12,665			
	事業費計 (A)	千円	0	13,710	203,765	0	0	0	
人件費	正規職員延従事人数	人		1.00	1.00				
	人件費計 (B)	千円	0	6,860	6,860	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	20,570	210,625	0	0	0	
活動指標	ア	m <sup>2</sup>		182	2,877				
対象指標	イ	m <sup>2</sup>		2,877	2,877				
成果指標	ウ	%		6	100				
上位成果指標	エ								


事務事業名	リニアの見える丘整備事業
-------	--------------

## 2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 市における観光スポットの創出は、訪れる観光客に対する最高のおもてなしとなる。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達してない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 唯一のリニア展望スポットとして整備した公園は、観光客の皆様にお越しいただくために、最適な広さの公園が整備されている。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 公園整備を行なわないと観光客を誘致することができない。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 構想から住民説明、設計、工事、完成までの期間が計画とおりに進み、事業費及び人件費は必要最小限で実施できた。
効率性評価		

## 3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) 平成26年度から、市の主要事業である、「リニアの見える丘整備構想」に基づき、公園・駐車場・トイレ等の整備を行ない、平成28年3月に竣工の運びとなりました。 県内においても、リニアの走行状況をリアルタイムで見学できるのは、笛吹市と見学センターのある都留市のみとなっております。 このようなことから、「リニアの見える丘・花鳥山展望台」が八代ふるさと公園展望台と併せて、地元市民はもとより県内外からも多くの皆様にお越しいただき、この素晴らしい観光資源を有効活用し、市の益々の発展と公共の利益の増進につながっていくことを期待するものです。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>X</td> <td>X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持			X																		
	低下		X	X																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み  平成27年度に整備事業は終了し、維持管理事業へ移行する。																						

事務事業名	避難路沿道建築物耐震診断等支援事業						所属部	建設部	所属課	まちづくり整備課
施策名	0	8	災害に強い安全な備えづくり				所属担当	計画指導担当	課長名	雨宮 茂貴
法令根拠	建築物の耐震改修の促進に関する法律						個別計画	笛吹市耐震促進計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H27年度～H32年度)		
	1	8	4	1	130	2				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<p>◇平成25年に建築物の耐震改修の促進に関する法律が改正され、緊急輸送道路沿いの避難路沿道建築物についても、耐震診断が義務化された地震災害に備え耐震化を促進するため、耐震診断支援事業を行う。</p> <p>◇耐震普及啓発として、広報及びHPへ掲載、該当建築物所有者に個別訪問を行い耐震への啓発と診断等の募集を行う。</p> <p>◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)</p> <p>・委託料 7,920</p>										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
避難路沿道建築物耐震診断	避難路沿道建築物耐震診断	避難路沿道建築物耐震診断	避難路沿道建築物耐震診断

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

緊急輸送道路等の避難路沿道建築物

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)

ア 広報掲載回数 回

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

避難路沿道建築物の耐震性の向上を図り耐震化を図り、災害に強いまちづくりを行う。

⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)

イ 避難路沿道建築物数 戸

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

地震災害に備え避難路沿道建築物の倒壊を防ぎ、緊急輸送道路の確保を行なう。

⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)

ウ 耐震診断実施件数 件

⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)

エ

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
事業費	国庫支出金	千円			3,168	2,413	2,413	2,413	社会資本総合交付金
	県支出金	千円			2,376	1,529	1,529	1,529	
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円			2,376	1,532	1,532	1,532	
投入量	事業費計 (A)	千円	0	0	7,920	5,474	5,474	5,474	県補助金(建築物耐震化促進事業)
人件費	正規職員延従事人数	人			0.30	0.30	0.30	0.30	
	人件費計 (B)	千円	0	0	2,058	2,058	2,058	2,058	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	9,978	7,532	7,532	7,532	
	活動指標	ア 回			2	2	2	2	
	対象指標	イ 戸			9	2	2	2	
	成果指標	ウ 件			7	2	2	2	
	上位成果指標	エ							



事務事業名	避難路沿道建築物耐震診断等支援事業
-------	-------------------


**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 耐震対策促進計画に即した対策であり、国補助対象についても、避難路沿道建築物であり実態に合っている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 市内の避難路沿道建築物については、これまでに耐震診断の実施が80%にとどまっている。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 大規模な地震災害に備え県内を繋ぐ緊急輸送道路の閉塞を防ぐための制度、対策であるため、事業を廃止、休止は想定できない。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 特段人件費等もかかっておらず、削減の余地はないものとする。
効率性評価		

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)          <p>全国的な取り組みとして、災害に対する備え作りを行なっている。県内の市町村実績と比べると本市の事業実績は平均を上回っているが、100%の耐震化に向けて継続した取り組みが必要と考える。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可  <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)  <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み    <p>建築物の所有者への積極的な説明の実施。</p>																						



事務事業名	耐震診断事業・耐震化支援事業						所属部	建設部	所属課	まちづくり整備課
施策名	08 災害に強い安全な備えづくり						所属担当	計画指導担当	課長名	雨宮 茂貴
法令根拠	建築物の耐震改修の促進に関する法律						個別計画	笛吹市耐震促進計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H18年度～H32年度)		
	1	8	4	1	60、70	1、1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳							耐震化をしてください！			
<p>◇昭和56年5月31日以前に着工された木造個人住宅の耐震化を促進するため、木造個人住宅の耐震診断支援事業を行なう。また、建築物の耐震改修の促進に関する法律が改正され、不特定多数の者が利用する特定建築物についても、耐震化を促進するため、耐震診断支援事業を行う。</p> <p>◇耐震普及啓発として、広報及びHPへ掲載、また自治会への説明会、該当建築物所有者に個別訪問を行い耐震への啓発と診断等の募集を行う。</p> <p>◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)</p> <p>・委託料 12,855</p>										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

← 実施計画期間 →

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
◇木造住宅耐震支援 (改修設計、改修、耐震建替)	◇木造住宅耐震支援 (改修設計、改修、耐震建替)	◇木造住宅耐震支援 (改修設計、改修、耐震建替)	◇木造住宅耐震支援 (改修設計、改修、耐震建替)

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

- ・昭和56年5月31日以前に着工された木造個人住宅
- ・昭和56年5月31日以前に着工された特定建築物

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 広報掲載回数	回
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 昭和56年5月31日以前に建築された耐震強度1未満の木造個人住宅数等	戸
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 耐震診断実施件数	件
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ	

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

市内の旧耐震基準の木造個人住宅等の耐震化を図り、災害に強いまちづくりを行う。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

地震時における家屋等の倒壊を防ぎ、生命、財産を守る。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
事業費	国庫支出金	千円	8,419	4,592	5,827	8,150	8,150	8,150	社会資本総合交付金
	県支出金	千円	3,785	2,396	2,013	5,345	5,345	5,345	
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	7,036	3,797	5,015	7,245	7,245	7,245	
投入量	事業費計 (A)	千円	19,240	10,785	12,855	20,740	20,740	20,740	県補助金 (わが家の耐震診断、わが家の耐震化)
人件費	正規職員延従事人数	人	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	
	人件費計 (B)	千円	1,991	2,058	2,058	2,058	2,058	2,058	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	21,231	12,843	14,913	22,798	22,798	22,798	
	活動指標	ア 回	5	5	5	5	5	5	
	対象指標	イ 戸	11,700	11,600	11,500	11,400	11,300	11,200	
	成果指標	ウ 件	75	53	46	60	60	60	
	上位成果指標	エ							

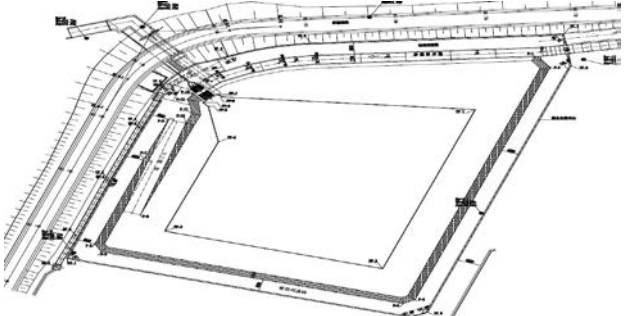
事務事業名	耐震診断事業・耐震化支援事業
-------	----------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>耐震対策促進計画に即した対策であり、国補助対象についても昭和56年5月31日以前に着工された木造個人住宅・特定建築物であり実態に合っている。</p>
有効性評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達してない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>県内の市町村実績から見ても本市は事業実績は多い結果となっている。</p>
	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>大規模な地震災害に備え生命、財産を守るための制度、対策であるため、事業を廃止、休止は想定できない。</p>
効率性評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>特段人件費等もかかっておらず、削減の余地はないものとする。</p>

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

<p>(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)</p> <p>全国的な取り組みとして、災害に対する備え作りを行なっている。県内の市町村実績と比べると事業実績は多いほうになるが、引き続き安全な備えづくりを進めて行く必要がある。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>対象となる個人住宅の所有者への支援内容の周知と特定建築物所有者への個別説明を実施する。</p>																						

事務事業名	浸水対策事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	08 災害に強い安全な備えづくり						所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H22年度～H29年度)		
	1	8	2	3	10	3				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
浸水常習地区の安全対策の整備をする。										
◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)										
・委託料 2,548千円 ・工事費 6,400千円  ※繰越事業費 平成27年度⇒平成28年度 260,877千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)				← 実施計画期間 →			
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画				
整備工事	整備工事	整備工事、完成					
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)			指標名(数字は記入しない)				単位
↓ 人(大坪区住民) 企業(石橋工業団地)			⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)				
			ア 路線延長				m
③ 意図(対象をどのような状態にしたいのか)			⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)				
↓ 安全安心な暮らし 新たな開発(企業誘致)			イ 計画改良延長				m
			⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)				
④ 結果(意図した結果、さらに何に反映させるか)			ウ 改良済延長				m
↓ 安心・安全のための備えづくりの確立。			⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)				
			エ 改良率				%

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
事業費	投入量	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円	115,900	91,700	8,500	248,000	190,000	
		その他	千円	8,015					
		一般財源	千円		4,846	448	13,877	10,000	
事業費計(A)		千円	123,915	96,546	8,948	261,877	200,000	0	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.80	0.80	0.80	0.80		
	人件費計(B)	千円	3,318	5,488	5,488	5,488	5,488	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	127,233	102,034	14,436	267,365	205,488	0	
活動指標	ア	m	650	650	650	650	650		
対象指標	イ	m	650	650	650	650	650		
成果指標	ウ	m	50	50	50	600	650		
上位成果指標	エ	%	8	8	8	92	100		


事務事業名	浸水対策事業
-------	--------

## 2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性 評価	<p>① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地あり</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>市民の安全への備えや工業団地への企業誘致のための事業であり、実態とあっている。</p>
有効性 評価	<p>② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？</p> <p><input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>設計段階で周辺の状況等を検討した上で、施設規模等を決定しているため。</p>
効率性 評価	<p>③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？</p> <p><input type="checkbox"/> 特に影響はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>これまで浸水の被害地区であり、対策を中止すると浸水被害が起こり住民が困る。</p>
効率性 評価	<p>④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p>	<p>⇒【理由】</p> <p>地区周辺の地形や土地利用、過去の経緯や被害状況等を調査し、施設設計等に反映している。</p>

## 3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>掘削土の搬出においては、最も費用対効果の高いスマートインターチェンジ事業との連携を進めていくことが確認されている。28年度は、一気に工事が進捗していく計画である。</p>																						
<p>(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">X</td> <td style="text-align: center;">X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	X																		
	低下		X	X																		
<p>(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み</p> <p>予算確保が第一と考えるが、限られた予算の中で効率的に使用していくことを職員に徹底させること。</p>																						

事務事業名	富士見地区道路冠水対策事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	08 災害に強い安全な備えづくり						所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H26年度～H29年度)		
	1	8	2	3	70	5				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
道路冠水の常習地区である石和町富士見地区の道路ネットワークの安全性・信頼性を確保するための事業。										
◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・委託料 21,913 工事費 14,817 用地費 2,024 ・補償費 3,888										
※繰越事業費 平成26年度 ⇒ 平成27年度 41,216千円										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
対策検討業務委託 詳細設計業務委託 水路整備工事	ポンプ整備工事 水路整備工事	ポンプ整備工事、完成	

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

住民 (富士見地区住民)

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 路線延長・ポンプ入替2基	m・基
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 計画改良延長・ポンプ入替2基	m・基
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 改良済延長・ポンプ入替2基	m・基
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 整備率	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

安全・安心な暮らし。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

安全・安心のための備えづくりの確立。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円			12,750	112,000	25,000	社会資本整備 総合交付金事業
		財源内訳	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円			30,600	128,800	23,700	
		その他	千円						
一般財源	千円			1,650	6,800	1,300			
事業費計(A)	千円	0	0	45,000	247,600	50,000	0		
人件費	正規職員延従事人数	人		0.30	0.30	0.50	0.20		
人件費計(B)	千円	0	2,058	2,058	3,430	1,372	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	2,058	47,058	251,030	51,372	0		
活動指標	ア	m・基		250・0	250・0	250・1	250・2		
対象指標	イ	m・基		250・0	250・0	250・1	250・2		
成果指標	ウ	m・基		—	250・0	250・1	250・2		
上位成果指標	エ	%		0	50	80	100		



事務事業名	富士見地区道路冠水対策事業
-------	---------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 富士見地区の住民の安全への備えの為、実態と合っている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 設計段階で事前の浸水エリアの調査を行い、施設規模等を決定しているため。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 富士見地区の浸水対策が出来なくなり、浸水被害により住民が困る。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 他事業も取り入れながら、工事積算、施工管理を行っているため。

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)          平成28年度は老朽化した排水機ポンプ2基を更新整備していく。これまでは国への働き掛けなど予算確保や詳細設計などを進めてきたが、整備工事がスタートする。28年度予算は増額となるが、施設整備による効果は大きい。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可  <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)  <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み    予算確保が第一と考えるが、限られた予算の中で効率的に使用していくことを職員に徹底させること。																						

事務事業名	水防事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	08 災害に強い安全な備えづくり						所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠	水防法						個別計画	笛吹市水防計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	9	1	4	10	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<p>市内の河川等の洪水による水害を警戒し、被害を軽減するため、水防用具の整備、充実を図り、地区に設置してある水防倉庫の管理を行い、水害時には迅速に対応する。また、水防計画書を作成し水害時の対応に備える。一級河川の流下阻害となる河道内伐木作業を実施する。</p> <p>◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需用費 669 ・役務費 786 ・委託料 1,323</li> <li>・使用料 1,987 ・原材料 401</li> </ul>										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段(主な活動)			
27年度実績		28年度実施計画	
水防用具の整備、水防倉庫の管理、緊急水害時の対応 水防計画書の作成 河道内伐木作業		水防用具の整備、水防倉庫の管理、緊急水害時の対応 水防計画書の作成 河道内伐木作業	
29年度実施計画		30年度実施計画	
水防用具の整備、水防倉庫の管理、緊急水害時の対応 水防計画書の作成 河道内伐木作業		水防用具の整備、水防倉庫の管理、緊急水害時の対応 水防計画書の作成 河道内伐木作業	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)		指標名(数字は記入しない) 単位	
↓ 河川 ↓ 水防活動従事者		⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
		ア 水防関係訓練等参加者数 人	
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)		⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
↓ 水害被害の防止、軽減を図る。		イ 水防活動従事者総数 人	
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)		⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
安全で安心の市民生活を送るための体制の充実。		ウ 水防用具の整備、充実率 %	
		⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
		エ 水防訓練参加率 %	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		財源内訳	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
	一般財源	千円	5,839	4,891	7,260	8,070	8,000	8,000	
	事業費計(A)	千円	5,839	4,891	7,260	8,070	8,000	8,000	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	人件費計(B)	千円	664	686	686	686	686	686	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	6,503	5,577	7,946	8,756	8,686	8,686	
	活動指標	ア	人	205	200	200	200	200	
	対象指標	イ	人	1,775	1,736	1,724	1,724	1,724	
	成果指標	ウ	%	97	97	97	97	97	
	上位成果指標	エ	%	12	12	12	12	12	


事務事業名	水防事業
-------	------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 水防法、笛吹市水防計画書により定められている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 水害等にかかる緊急時の対策に必要な資材の確保を実施している。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 水害に対する備えは必要不可欠である。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 緊急時の対策に必要な資材の確保なので、削減の余地はない。
効率性評価		

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)          <p>水害時、迅速な水防対策を進めるためには、日頃から、水防整備を進めていく必要がある。整備計画が解りやすいよう、整備状況を定期的に示すことが大切。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み    <p>日頃から水防整備を進め、資材の保管状況を職員全員が共通の知識として保有することが大切。</p>																						

事務事業名	市営住宅四日市場団地建替事業						所属部	建設部	所属課	管理総務課
施策名	1	0	快適で暮らしやすい生活環境づくり				所属担当	総務住宅担当	課長名	小川 和仁
法令根拠	公営住宅法						個別計画	笛吹市営住宅長寿命化計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度( H27年度～H30年度)		
	1	8	5	2	10	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<p>四日市場住宅の既存建物の老朽化に伴い広瀬住宅、長塚団地を取り込んで新しい公営住宅を建設する。</p> <p>◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)</p> <p>用地購入 63,683</p> <p>基本設計等委託 17,161</p> <p>需用費等 3</p>										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
用地購入 基本設計(プロポーザル)	実施設計 四日市場団地現在入居者移転 笛吹市営住宅長寿命化計画見直し	新四日市場団地建設	広瀬・長塚・旧四日市場団地入所者移転 新規入居 広瀬・長塚団地解体工事

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

低所得・高齢・子育て世代の住宅困窮者

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 建替えが必要な木造、CB造り戸数	戸
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 市営住宅の管理戸数	戸
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 市営住宅の入居戸数	戸
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 市営住宅の待機者数	人

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

低廉な家賃で良質な住宅を提供することにより、便利で安全な生活をおくることが出来るようにする。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

低所得者・高齢・子育て世代・障害者等の理由により安定的に住居が確保できない者に良質な住宅を提供し、住生活の向上を図る。(セーフティネットの確保)

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名	
投入量	事業費	国庫支出金	千円			7,683	15,306	250,000	13,820	社会資本整備総合交付金
		財源内訳	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円				49,102	442,000	28,001	
		その他	千円			63,682				
	一般財源	千円			9,482	11,092	6,000	5,611		
	事業費計(A)	千円	0	0	80,847	75,500	698,000	47,432		
人件費	正規職員延従事人数	人			1.00	1.00	1.00	1.00		
	人件費計(B)	千円	0	0	6,860	6,860	6,860	6,860		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	87,707	82,360	704,860	54,292		
活動指標	ア	戸			119	119	66	66		
対象指標	イ	戸			367	400	400	400		
成果指標	ウ	戸			307	370	380	390		
上位成果指標	エ	人			39	51	43	36		

事務事業名	市営住宅四日市場団地建替事業
-------	----------------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？	⇒【理由】 住宅確保困難者に安価で良質な住生活を提供する。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	
有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？	⇒【理由】 老朽化の激しい木造住宅が数多く残っており、良質な住宅に建替える必要がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	
効率性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？	⇒【理由】 高齢であることで住宅確保が困難である高齢者、世帯員が多く十分な広さの生活空間を確保できない子育て世代、構造上生活行動に支障が生じている障がい者、低所得により良質な住生活が確保出来ない低所得者の住宅確保が困難になる。
	<input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	
効率性評価	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？	⇒【理由】 良質な住生活の確保は国の責務であることから、建設や改修及び家賃の低廉化に関する補助が実施されており、制度上、国からの補助と入居者の家賃で費用の多くが賄える。
	<input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>建替えを必要とする住宅はまだまだ多く有る中、民間アパートなどの借上で対応すべきであるとの意見もある。</p> <p>建設、借上げ共に費用的にはさほどの差異は無いとの試算結果が出ているが、安定的な供給を考えるとある程度の建替えは必要と考えるが、将来を見越して引き続き検討の必要がある。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						
<p>緊急を要する木造の建替え順番や集約の計画については、平成28年度の長寿命化計画の見直しの中で対応する。</p> <p>建替え、借り上げを上手く併用できる仕組みの検討を進める。</p>																						



事務事業名	公営住宅維持管理事業					所属部	建設部	所属課	管理総務課
施策名	1	0	快適で暮らしやすい生活環境づくり			所属担当	総務住宅担当	課長名	小川 和仁
法令根拠	公営住宅法					個別計画	笛吹市営住宅長寿命化計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)	
	1	8	5	1	10	1			

○事務事業の概要および主な事業費の内訳

29団地367戸を適正に管理し、住宅に困窮する世帯や定住世帯に対して居住環境が良好な住宅を供給する。

◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)

住宅改修工事費	34,193
設計委託	6,350
修繕料・管理委託	16,877
使用料等その他費用	5,000



1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段(主な活動) ← 実施計画期間 →			
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
入退去事務・家賃算定・使用料徴収・督促・苦情対応・施設管理・修繕工事・解体工事	入退去事務・家賃算定・使用料徴収・督促・苦情対応・施設管理・修繕工事・解体工事	入退去事務・家賃算定・使用料徴収・督促・苦情対応・施設管理・修繕工事・解体工事	入退去事務・家賃算定・使用料徴収・督促・苦情対応・施設管理・修繕工事・解体工事
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)		指標名(数字は記入しない) 単位	
住宅困窮者		⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
		ア 市営住宅管理戸数	戸
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)		⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
環境が良好な住居を提供できる		イ 入居世帯数	世帯
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)		⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
便利で安全な日常生活を送ることができる。		ウ 長寿命化計画に基づく修繕工事団地数	団地
		⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
		エ 入居世帯数	世帯

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	35,956	14,948	11,950	38,381	38,381	社会資本整備総合交付金	
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	83,975	85,939	50,470	76,436	76,436		76,436
		一般財源	千円	22,477	4,852	0	13,334	13,334		13,334
	事業費計(A)	千円	142,408	105,739	62,420	128,151	128,151	128,151		
人件費	正規職員延従事人数	人	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70	1.70		
	人件費計(B)	千円	11,280	11,662	11,662	11,662	11,662	11,662		
トータルコスト(A)+(B)		千円	153,688	117,401	74,082	139,813	139,813	139,813		
活動指標	ア	戸	383	369	367	400	400	400		
対象指標	イ	世帯	321	308	307	370	380	390		
成果指標	ウ	団地	7	2	2	2	2	2		
上位成果指標	エ	世帯	321	308	307	370	380	390		

事務事業名	公営住宅維持管理事業
-------	------------

## 2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 低所得者の住宅セーフティネットを確保し、住宅困窮者に優良住宅を提供している。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 修繕工事は計画に沿って順次実施しており、修繕によっても良質を確保できない住宅は用途廃止している。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 居住環境の良い住宅を提供できなくなる。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 老朽化が進む団地の維持工事は必要度に応じ、必要最小限の範囲で計画的に実施している。入退居に係る修繕費等は一部利用者負担としている。人件費は、非常に多くの業務を最低限の人員で対応している。

## 3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)  <p>他市の公営住宅戸数に比較が少ない状況にある。維持管理によつて長寿命化を図っているが、維持のみでは良質な住居として提供できない住宅が多くなっていることから建替えを実施していく。空家の多い八代促進住宅は、エレベータ設置の検討も行い入居者の増加を図る。</p> <p>維持管理費用は、使用料、国庫補助金で対応しているが、住宅の老朽が進むにつれ使用料収入が減少する一方で修繕費が増加する為、建替え事業を着実に進める必要がある。また、民間賃貸住宅の借り上げを有効に使う為の計画も同時に検討する必要がある。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						

事務事業名	用地管理事業						所属部	建設部	所属課	管理総務課						
施策名	1	0	快適で暮らしやすい生活環境づくり				所属担当	管理担当	課長名	小川 和仁						
法令根拠	道路法、道路法施行条例、公共物管理条例、登記法等						個別計画									
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)								
	1	8	1	2	10	1										
○事務事業の概要および主な事業費の内訳																
<p>法定外公共物の管理及び占用に伴う審査、調査、現地立会を行う。また、未登記土地の解消を図る。</p> <p>◇平成27年度の主な事業費(単位:千円)</p> <table border="1"> <tr><td>未登記測量委託等</td><td>6,048</td></tr> <tr><td>嘱託職員人件費</td><td>3,022</td></tr> <tr><td>需用費等その他費用</td><td>453</td></tr> </table>											未登記測量委託等	6,048	嘱託職員人件費	3,022	需用費等その他費用	453
未登記測量委託等	6,048															
嘱託職員人件費	3,022															
需用費等その他費用	453															



1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
用途廃止、登記、境界確認、占用許可・法定外システム異動処理・公共物占用台帳管理システム維持管理	用途廃止、登記、境界確認、占用許可・法定外システム異動処理・公共物占用台帳管理システム維持管理	用途廃止、登記、境界確認、占用許可・法定外システム異動処理・公共物占用台帳管理システム維持管理	用途廃止、登記、境界確認、占用許可・法定外システム異動処理・公共物占用台帳管理システム維持管理

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

市内の土地

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 年間占用許可件数	件
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 市の総面積	km <sup>2</sup>
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 登記済数	件
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 未登記土地の登記件数	件

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

私有地・道路及び水路の境界が正しく把握できるようになる。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

道路・水路の適正な管理、未登記土地の解消により住民の財産を守る。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	6,917	8,616	8,659	5,195	5,195	5,195
		一般財源	千円	15,996	194	864	10,439	7,005	7,005
	事業費計(A)	千円	22,913	8,810	9,523	15,634	12,200	12,200	
人件費	正規職員延従事人数	人	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30	2.30	
	人件費計(B)	千円	15,261	15,778	15,778	15,778	15,778	15,778	
トータルコスト(A)+(B)		千円	38,174	24,588	25,301	31,412	27,978	27,978	
活動指標	ア	件	673	946	1,034	900	900	900	
対象指標	イ	km <sup>2</sup>	202	202	202	202	202	202	
成果指標	ウ	件	1,157	1,453	1,856	1,600	1,600	1,600	
上位成果指標	エ	件	51	62	50	50	50	50	

事務事業名	用地管理事業
-------	--------


## 2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？ 上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 境界を正しく把握し、適正な管理することが財産保全に必要。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 未登記土地の解消が追いつかない。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？ また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 道水路の管理は、有効土地利用に欠かせない。また、未登記土地の解消により住民の財産を保全する必要がある。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？ 活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 最小の人数で事業実施している。
効率性評価		

## 3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)  <p>法定外公共物、道水路の管理は、土地の有効活用や財産に係る事業であるため、公平性の確保に留意して処理対応している。</p> <p>発覚した未登記は総て対応しているが、内容によっては多大な時間を要し、未登記であることを知らずに売買により取得した第三者については特に解消が困難となっている。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み  <p>未登記解消は、費用と人手が大量に必要な。未登記地の掘り起こしによる解消は困難であるが少しずつ進めていく。</p>																						



事務事業名	河川水路整備事業						所属部	建設部	所属課	土木課
施策名	1	0	快適で暮らしやすい生活環境づくり				所属担当	建設担当	課長名	須田 富士男
法令根拠	河川法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	8	3	2	10	2				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
生活用水路の機能が確保されるよう維持管理、修繕、改修を行う。 水路の維持修繕、改良工事(現地確認、設計積算、施工管理、検査引き取り) 準用河川の浚渫										
◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・工事費 14,058 ・用地費 187 ・委託費 2,513										
※繰越事業費 平成26年度 ⇒ 平成27年度 15,509千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

← 実施計画期間 →

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
地区要望受付、関係部局調整、現地確認、用地取得、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受	地区要望受付、関係部局調整、現地確認、用地取得、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受	地区要望受付、関係部局調整、現地確認、用地取得、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受	地区要望受付、関係部局調整、現地確認、用地取得、工法検討設計積算、住民協議、施工管理、検査、引受

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

↓ 市民

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 地区要望件数	件
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 行政区数	区
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 対応件数	件
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 要望対応率	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

↓ 快適に利用できるよう整備する。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

生活道路、水路、上水道、公営住宅など、日常に欠かさない社会基盤が整備され便利に暮らすことができる。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	22,196	37,228	37,434	21,011	44,000	44,000
	事業費計 (A)	千円	22,196	37,228	37,434	21,011	44,000	44,000	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.30	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	
	人件費計 (B)	千円	1,991	3,430	3,430	3,430	3,430	3,430	
トータルコスト(A)+(B)		千円	24,187	40,658	40,864	24,441	47,430	47,430	
活動指標	ア	件	20	25	25	25	25	25	
対象指標	イ	区	132	132	132	132	132	132	
成果指標	ウ	件	9	6	10	12	12	12	
上位成果指標	エ	%	45	24	40	48	48	48	



事務事業名	河川水路整備事業
-------	----------

**2 評価の部 (CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？  <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 改修の要望がされるのは、市内全準用河川・水路に対して申請される。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？  <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達してない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 限られた予算で執行しているため、全ての地区要望箇所に対し、応えきれていない。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？  <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 河川や水路の機能が損なわれると日常生活に支障をきたす。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？  <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 事業費としては、委託費・工事費・用地費・補償費である。住民の要望に答えるため、工法等を検討し進めている。簡易な修繕等は職員も現地に出向き対応している。

**3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) \* 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価**

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)          <p>厳しい予算のなか、地区要望に応じていくには、十分な協議検討を行的確な優先順位と創意工夫により、事業を進めていく必要がある。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み     <p>協議検討により明確な優先順位と創意工夫により、事業を進めていく。</p>																						